

研究主題「社会的事象の見方・考え方を働かせ、事象の特色や意味などについて 考えることができる児童の育成 ー構成図を基にした問いの工夫を通してー」

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
江東区立東砂小学校 主任教諭 清水 隆志

第1 研究のねらい

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（東京都教育委員会）の小学校社会科における、平成26年から平成30年までの結果の平均正答率は、「必要な情報を取り出す力」の問題に比べ、「比較・関連付けて読み取る力」の問題が16.6ポイント低く、「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」の問題についても18ポイント低い数値を示している。このことから、必要な情報を取り出すことはできても、比較・関連付けて読み取ったり、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決したりするまでに至らない児童が多いことが分かった。

小学校学習指導要領（平成29年3月告示）では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められている。また、留意点や配慮事項には、深い学びの鍵として見方・考え方が重要となること、児童が見方・考え方を働かせるために、学習問題の設定や問いの構成を工夫することなど、授業改善に向けた具体的内容が示されている。小学校社会科における見方・考え方を働かせた学びは、捉えた事実や情報を比較・分類、総合、関連付けることで、事象の特色や意味などの概念等の知識を獲得するというプロセスをたどる。そうした点から、見方・考え方を働かせた学びの実現は、東京都における社会科学習の課題である比較・関連付けて読み取る力及び意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力の育成につながると考える。

そこで、社会的事象の見方・考え方を働かせるために有効な手だてを開発することで、事象の特色や意味などについて考えることができる児童の育成につなげていくことを、本研究のねらいとする。

第2 研究仮説

社会的事象の見方・考え方を分析して「問いの構成図」を作成し、単元における問いを工夫することで、社会的事象の見方・考え方を働かせて事象の特色や意味などについて考えることができる児童が育つであろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

小学校学習指導要領解説社会編（平成29年7月）を基に、「社会的事象の見方・考え方」について分析した。その結果、見方・考え方は社会的事象について考察・構想する際の視点や方法であり、視点の具体として「空間、時間、相互関係」が、方法の具体として「比較・分類、総合、関連付け」があることが分かった。

また、見方・考え方を働かせるためには、視点や方法を意識した問いを設定することが重要となると考えた。問いの設定によって児童が視点に着目したり、思考方法を用いて考えたりして具体的事実、様子、仕組みなどを捉え、捉えた具体的事実などを基に、社会的事象の特色や意味等の概念等に関する知識を獲得することが、見方・考え方を働かせた学びのプロセスとなると考えた。

2 調査研究

令和元年7月、都内公立小学校20校の教員294人を対象に社会的事象の見方・考え方及び社会科の指導についての意識調査を実施した。社会的事象の見方・考え方に関して、その理解について肯定的回答をした割合は33%であった。また、社会科の指導について「指導計画を立てること」、「問いを設定すること」に自信があると回答をした割合はそれぞれ36%、37%と、他の項目よりも低い数値を示した(表1)。この結果から、児童が見方・考え方を働かせて深い学びを実現するためには、見方・考え方を分析することや、指導計画の段階で単元における問いを構成することが必要であると考えた。

表1 教員の意識調査

	理解している
見方・考え方	33%
社会科の指導	自信がある
指導計画を立てる	36%
問いを設定する	37%
資料を提示する	51%
学習活動を展開する	44%
学習のまとめを行う	43%

3 開発研究

(1) 社会的事象の見方・考え方の分析

社会的事象の見方・考え方の具体である視点や方法にはどのようなものがあるのかを明らかにするため、着目すべき視点や思考の方法を具体化して図式化した(図1)。

また、社会的事象の見方・考え方を働かせるために有効であると考えられる問いの例を、視点である空間、時間、相互関係、方法については比較・分類、総合、関連付けとして位置付け、一覧に示した(表2)。

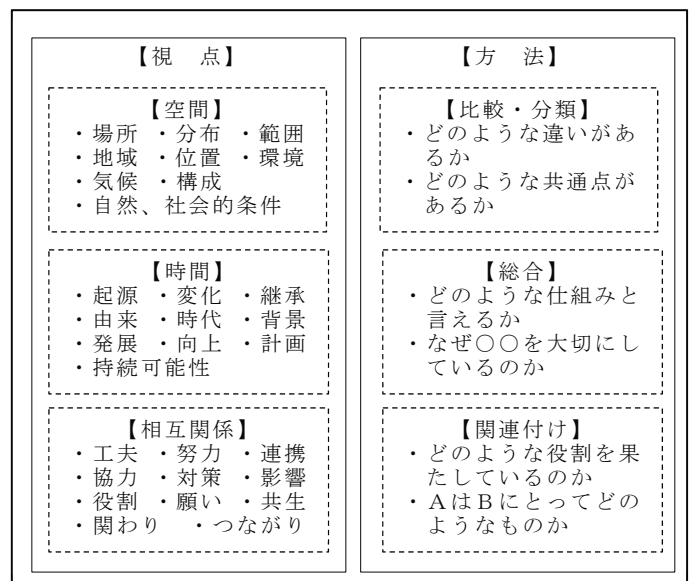


図1 視点や方法の具体例(一部抜粋)

表2 社会的事象の見方・考え方を働かせる問いの例

視点	事実を問う		特色や意味などを問う		
			方法		
			比較・分類	総合	関連付け
空間	どのような(に) 場所にあるのだろう 広がっているのだろう どこ で生産されているのだろう から来ているのだろう	どのような 違いがあるのだろう 共通点があるのだろう	どのような 特色があると言えるだろう	なぜ この場所に集まっているのだろう このように広がっているのだろう どのように 〇〇(自然条件)を生かしているの だろう	
時間	どのように(な) 変わってきたのだろう 受け継がれてきたのだろう 経緯があったのだろう 〇〇(災害、公害)があった のだろう いつ から始まったのだろう	(AはBと比べ) どのように(な) 変化したのだろう 共通点があるのだろう ことが変わらないのだろう	(当時は) どのように 様子だったのだろう	なぜ 始まったのだろう 変わったのだろう 変わらずに続いているのだろう どのように 関連がAとBの変化にあるのだろう	
相互 関係	どのような(に) 願いがあったのだろう 方法があるのだろう 関わりがあるのだろう 力を合わせているのだろう 工夫をしているのだろう 努力をしているのだろう	どのような 種類があるのだろう	どのような 〇〇(仕組み、工夫)と言え るだろう 特色があると言えるだろう なぜ 〇〇を行ったのだろう このような協力が必要なの だろう	どのように(に) 関連があるのだろう(AとB) 役割を果たしているのだろう ものだろう(AはBにとって) することが大切なのだろう なぜ 〇〇(災害、公害)が起こるのだろう このようなつながりがあるのだろう このような工夫(努力)をしているの だろう	

(2) 社会的事象の特色や意味などについて考えるための工夫

ア 問いの構成図

児童にどのような視点に着目させ、どのような方法で社会的事象の特色や意味などについて考えさせるかを明確化するための手だてとして「問いの構成図」を開発した(図2)。小学校学習指導要領(平成29年3月告示)第5学年の内容(3)アを基に、単元の学習で獲得させたい概念等に関する知識を、内容(3)イを基に、着目すべき視点や思考の方法を設定した。

		着目する事象	視点 方法	問い	知識
課題 追究	第 2 時	外国との関わり	相互関係	日本はどのような国と、どのような貿易を行っているのだろう。	日本はアメリカや中国、オーストラリアなど多くの国と貿易を行っている。原料を多く輸入し、製品を輸出するという特色がある。
		貿易の特徴	時間	日本の貿易額は、どのように変化してきているだろう。	
			総合	日本の貿易には、どのような特徴があるだろう。	

図2 問いの構成図(一部抜粋)

イ 児童が理解を深める問い

児童の理解が具体的事実や様子などにとどまらず、概念等に関する知識に到達するための手だてとして、学んできたことを基に社会的事象の特色や意味について考えさせる「児童が理解を深める問い」を設定した。本研究では、「船や飛行機が使えなくなったら、日本の工業はどうなるだろう」という運輸機能が停止した場合を想定する問いを設定し、貿易や運輸の役割について児童が考えられるようにした。

4 検証授業の分析

令和元年10月に、都内公立小学校にて第5学年「貿易と運輸」(全6時間)の検証授業を実施し、以下の視点で手だて等の有効性について検証した。

(1) 児童が見方・考え方を働かせて、具体的事実や様子などを捉えることができていたか

課題追究の段階である第2時から第5時までのノートの記述から、児童が社会的事象の見方・考え方を働かせて具体的事実や様子などを捉えることができていたかについて分析した。

外国との関わりや貿易の特徴に着目した第2時では、「日本は中国やアメリカ、オーストラリアなどの国と、貿易摩擦にならないようにバランスを取りながら、互いに輸出や輸入をして貿易を行っている」などの記述があり、相互関係に着目して日本の貿易の特徴を捉えていた児童の割合は92.7%であった。輸送手段の特徴に着目した第3時では、「運輸の手段には、たくさんの量を運ぶことができる、運ぶのに時間がかかるなど、それぞれ長所と短所があり、運ぶ荷物によって手段を使い分けている」などの記述があり、輸送手段を比較してそれぞれの特徴を捉えている児童の割合は97.6%であった。国内外における交通網の広がりに着目した第4時では、「交通網は国内や世界中に張り巡らされている。そのため、日本はいろいろな所に運輸ができ、世界の国々と貿易ができる」などの記述があり、空間の視点に着目して交通網の広がりを捉えていた児童の割合は97.6%であった。運輸に関わる人々の工夫や努力に着目した第5時では、「できるだけ多くの車を積めるよう、車の高さに合わせて床の高さを変えたり、車と車の間を狭くしたりして、効率よく運ぶための工夫をしている」、「運ぶ物を傷つけないように安全ベルトを使ったり、危険を避けるために情報を得たりするなど、安全に運ぶための工夫や努力をしている」などの記述があり、相互関係の視点に着目して運輸に関わる人々の工夫や努力を捉

えていた児童の割合は92.7%であった。毎時間9割以上の児童が社会的事象の見方・考え方を働かせて具体的事実や様子などについて考えることができている、視点や方法を明確化した問いの設定が有効であったと考える。

(2) 単元で捉えさせたい概念等に関する知識を、児童が捉えることができているか

課題解決の段階である第6時のノートの記事から、「児童が理解を深める問い」や学習問題に対する考えについて分析した。「児童が理解を深める問い」については、97.6%の児童が「輸入ができなくなり、原料不足から製品が作れなくなる」、「輸出ができなくなり、製品を売ることができなくなる」など、運輸機能が停止した場合について考えることができている。学習問題に対する考えについては、92.9%の児童が「貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしている」という概念等に関する知識を捉えることができている(表3)。本実践の前の単元「自動車工業」において、小学校学習指導要領解説社会編(平成20年8月)に記載されている「我が国の工業生産は、国民生活を支える重要な役割を果たしている」という概念等に関する知識を捉えることができている割合は61.9%であり(表4)、本実践の方が30ポイント以上、概念等に関する知識を捉えることができている児童が多いことから、「問いの構成図」によって単元における問いを構成し、「児童が理解を深める問い」を設定したことが有効であったと考える。

表3 第6時における児童の記事例と、概念等に関する知識について考えることができた割合

問い	児童の記事例	割合
児童が理解を深める問い 「船や飛行機が使えなくなったら、日本の工業はどうなるだろう。」	・ 輸入ができなくなり、原料不足で製品が作れなくなってしまう。 ・ 輸出ができなくなり、製品を作っても売ることができないので、工場が潰れてしまう。日本の工業がだめになってしまう。	97.6%
学習問題 「貿易や運輸は、どのような役割を果たしているのだろう。」	・ 貿易や運輸は、日本の工業にとってなくてはならないものである。なぜなら、日本は原料の多くを輸入に頼っていて、原料が輸入できないと製品を作ることができなくなり、生活するために必要な物がなくなってしまうから。また、運輸ができないと製品を作っても輸出ができなくなり、工業が発展しなくなってしまうから。	92.9%

表4 前単元における児童の記事例と、概念等に関する知識について考えることができた割合

問い	児童の記事例	割合
学習問題 「自動車工業は、どのような役割を果たしているのだろう。」	・ 自動車生産に関わる人が工夫や努力をすることでより性能のよい車が作られて、わたしたちの生活は便利になっている。だから、自動車工業は自分たちの生活をよりよくする役割を果たしている。	61.9%

第4 研究の成果

授業計画の段階において、着目すべき視点や思考の方法を意識した「問いの構成図」を開発し、問いの設定に活用したことで、社会的事象の見方・考え方を働かせて児童に毎時間の学習課題や単元の学習問題を追究させることができた。

また、「児童が理解を深める問い」を設定したことで、理解が具体的事実や様子などにとどまらず、学んできたことを基に概念等に関する知識についても捉えさせることができた。

第5 今後の課題

本研究で開発した「問いの構成図」を他の単元及び学年でも作成し、授業実践を基に検証することで、社会的事象の見方・考え方を働かせる問いの精度を高めていく。また、選択・判断に関わる単元での問いの構成や有効な問いの設定について、研究を進めていく。